

相場 未来子 日本共産党

あきたこまちRへの全面切替え

【質】県が発表した水稲作付のあきたこまちRへの全面切替えについて、安心・安全への不安や疑問の声が上がっている。従来のあきたこまちを作付したいという生産者に財政支援の考えは。

【答】あきたこまちRの安全性は問題ないものと認識しており、推進していくべきと考えている。県内産と他県産の種子代に大きな差がないこと、また、カドミウム低吸収品種のあきたこまちRへの切替えを進め、より厳しい基準にも対応できるようにしていくべきであることから、他県産あきたこまちの種子購入への支援は考えていない。

高齢者を対象にタクシーチケットを

【質】昨年末まちなかコサクルの実証実験が行われた。まちなかコサクルの本格運用と同時に、市民の利便性とタクシー会社の経営を守るためにも高齢者を対象にタクシーチケットを配付すべきではないか。

【答】高齢化が進む本市では市民の移動手段の確保を重要な課題と捉えており、低料金かつ複合的に公共交通網を強化しているが、かかる事業費は約1億2800万円となっている。厳しい財政状況の中ではタクシーチケットの導入は難しいと考えているが、市民や交通事業者の意見を伺いながら引き続き移動支援の在り方について研究していく。

その他の質問事項

- 防災FMとしての「コミュニティFM開局支援
- 教育を受ける権利として学校給食費の無償化
- 児童生徒の議会見学の推進

安井 英章 シリウス

二ツ井中央公園の名称を公募で変えては

【質】二ツ井地域の住民に中央公園といえどどこかと聞けば、鷹巣と答える。「さくら新町」は、当時の町民に公募して決め、親しみのある名称となった。名称を変えるべきでは。

【答】二ツ井中央公園多目的広場については、平成21年3月に供用を開始してから、利用者の間では二ツ井中央公園という呼び名で定着している。また、のしろ子育てエンジョイマップや二ツ井町観光協会パンフレット等にも掲載され、二ツ井中央公園として一般的に認識されているため、現時点では名称の変更は考えていない。

旧仁鮎小の解体には猶予期間が必要では

【質】体育館を除き解体することとしたが、存続に関する意見が多く出ている。住民からも地元負担が少なければ条件をつけ残すべき建築部分もあるとの意見がある。解体時期をもう一度検討すべきでは。

【答】地元活用検討委員会や地域協議会、地元部落の総会での協議等の経緯を踏まえ、利活用は考えていないことから令和6年度当初予算に解体工事を計上している。老朽化が著しく進んでおり、近隣に対する安全を確保する上でも早期着工が必要で、降雪前の完成スケジュールとしていることから猶予期間を設けることは難しいと考えている。

その他の質問事項

- 二ツ井中央公園の案内看板設置
- 災害時のための地域FM開局の支援
- 現実解として石炭火力発電を天然ガスに

阿部 誠 平政・公明党

地元企業における人材の確保

【質】市では人材確保支援事業として様々な取組をしており、今後、市内への就職者の増加が予想される。就職者が仕事になじむまでの間のフォローアップをどのように考えているか。

【答】就職した移住者も対象に、移住交流サロンの開催や各種イベント等の情報提供、窓口での移住後サポート、移住者交流会を実施している。また、就職後の職場定着を図るため、企業が行う資格取得の支援や若手社員のスキルアップ研修会・交流サロン等を開催している。さらに新たな効果的な事業を推進するなど、定着につながるよう取り組んでいく。

中心市街地の将来を見据えたまちづくり

【質】駅前ホテル構想や洋上風力関連、誘致企業の進出など、今後への期待が高まっている。それらを俯瞰的に捉え、持続可能な中心市街地をつくるため、産学官が一体となった取組を推進していく考えは。

【答】今年度策定する第3期能代市中心市街地活性化計画では、町なかにあるチャレンジが様々な主体の後押しでさらに広がり、その先にある豊かな日常を目指すこととしている。主体となるまちづくりに取り組む民間や専門的知見から参画する大学の存在は大きく、中心市街地活性化に産学官が一緒になって取り組んでいく関係を構築していきたい。

その他の質問事項

- ふるさと教育の取組
- ふるさと教育で地域の人と関わる機会の創出